

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭60-159024

⑮ Int. Cl. 4
E 02 B 3/22
// E 01 D 19/02

識別記号 庁内整理番号
7505-2D
6536-2D

⑯ 公開 昭和60年(1985)10月23日

審査請求 未請求 (全3頁)

⑰ 考案の名称 浮遊式複合型緩衝工

⑱ 実 願 昭59-45916

⑲ 出 願 昭59(1984)3月31日

- ⑳ 考 案 者 長 澤 準 東京都目黒区平町1丁目23番5号
- ㉑ 考 案 者 山 中 鷹 志 倉敷市藤戸町藤戸1178-45
- ㉒ 考 案 者 小 林 辰 夫 藤沢市鶴沼松ヶ岡2-5-14
- ㉓ 考 案 者 太 田 亘 平塚市岡崎6218-11
- ㉔ 考 案 者 長 谷 川 恵 一 平塚市徳延490
- ㉕ 出 願 人 運輸省船舶技術研究所
長
- ㉖ 出 願 人 本州四国連絡橋公団総
裁
- ㉗ 出 願 人 横浜ゴム株式会社 東京都港区新橋5丁目36番11号
- ㉘ 代 理 人 弁理士 小川 信一 外2名

㉙ 実用新案登録請求の範囲

水中構造物の周囲に摺動可能に配置した本体ブロックと、この本体ブロックの船舶侵入側の吃水付近に着脱可能に取り付けた弾性緩衝材とからなり、前記本体ブロックは、塑性変形材料あるいは塑性変形材料及び脆性破壊材料の組合せから構成し、また前記弾性緩衝材は、浮力を付与したゴム状弾性体により構成したことを特徴とする浮遊式複合型緩衝工。

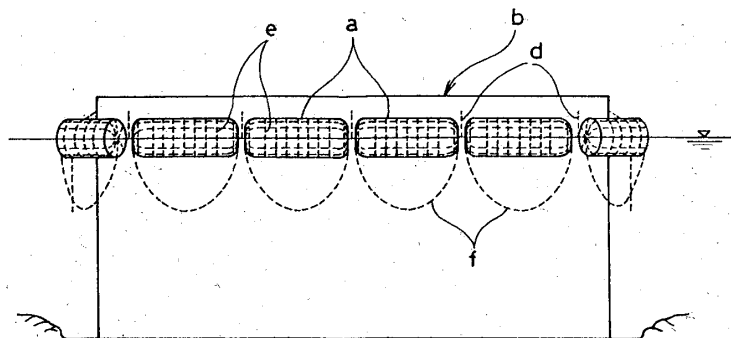
図面の簡単な説明

第1図及び第2図は従来の浮遊式緩衝工を示し、第1図はこれを橋脚すなわち水中構造物の周

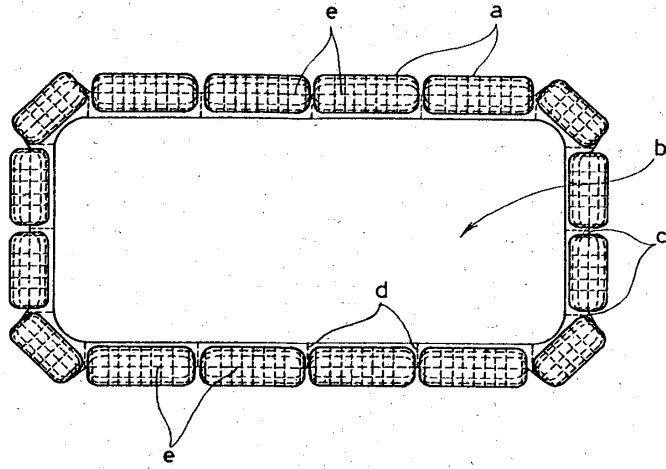
囲に取り付けた状態を示す平面視説明図、第2図は同上正面視説明図である。また第3図～第6図は本考案の実施例からなる浮遊式複合型緩衝工を示し、第3図は本浮遊式複合型緩衝工を橋脚すなわち水中構造物の周囲に取り付けた状態を示す平面視説明図、第4図は同上正面視説明図、第5図は第4図X-X矢視断面拡大説明図、第6図は他の実施例からなる浮遊式複合型緩衝工の断面拡大説明図である。

10……本体ブロック、10a……本体ブロック10の船舶侵入側、20……弾性緩衝体、G……水中構造物。

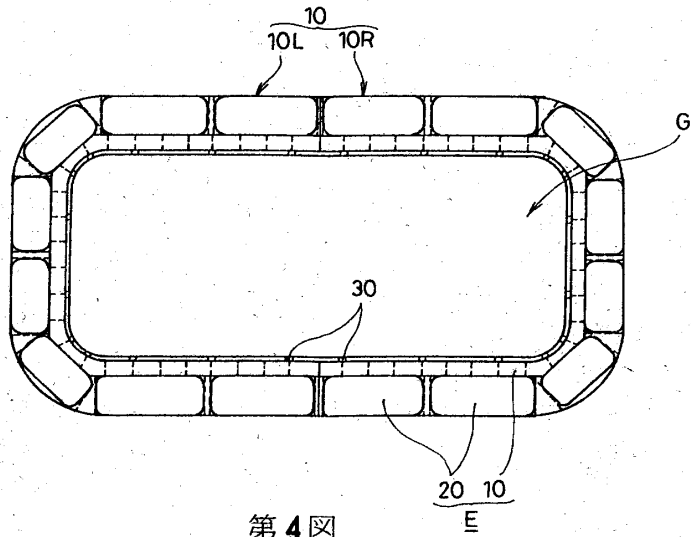
第2図



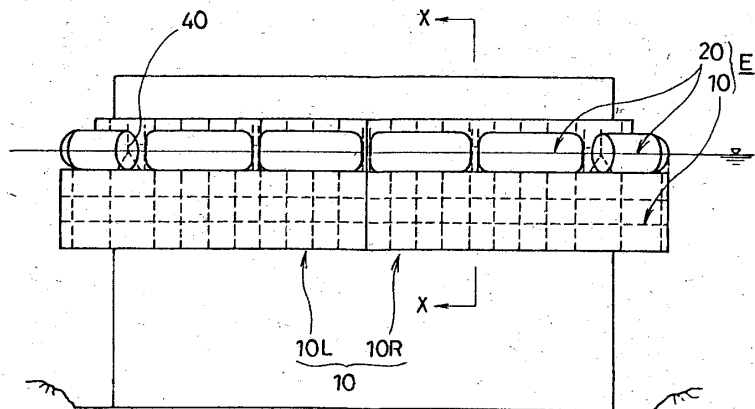
第1図



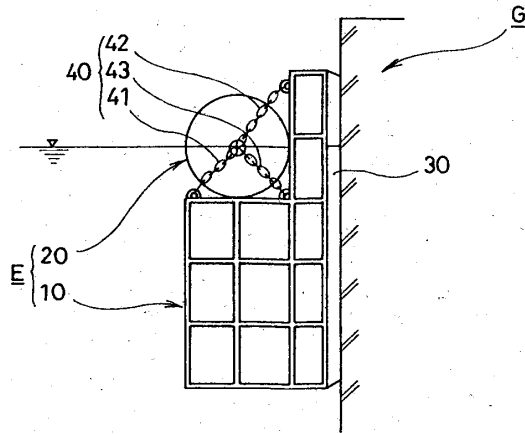
第3図



第4図



第5図



第6図

